５月２５日(金)
総会並びに研修会

五月二十五日（金）メートプラザ佐賀において、県内の学校教育、社会教育等関係者など三百九十三人が参加して、第四十九回佐賀県人権・同和教育研究協議会総会並びに研修会を開催しました。

総会では、本協議会の事業や研究課題、新役員体制などについて承認を受け、「部落差別解消推進法」を社会教育・学校教育の現場に反映させて、佐同教第三次改革プランに基づく三年目の取組を前進させることが確認されました。

議長は、有田町生涯学習課の藤田さんと牛津小学校の冨吉さんでした。スムーズな議事運営ありがとうございました。

研修会

講演　学校で配慮と支援が必要なＬＧＢＴの子どもたち

宝塚大学看護学部　教授　日高 庸晴 さん

ＬＧＢＴなどの性的マイノリティについて、最近はよくメディアにも取り上げられるようになったが、正しい知識を持ち得ている人はまだまだ少ないのが実際のところである。

講師の日高庸晴さんに、性的指向や性自認などの悩みを抱える子どもたちに対して、どんな配慮や支援が必要なのかを長年の調査・研究から、具体的データや事例を示しながら分かりやすく話をしていただいた。

（講演内容のポイント）

○２０１５年文部科学省は、心と体の性が一致しない性同一性障害の児童生徒に対する学校での対応例をまとめ、全国の教育委員会などに通知した。学校生活では男女別の規則や活動も多いため、服装、髪型、授業などでの配慮や支援の具体例を提示。「先入観を持たず、児童生徒の状況に応じた柔軟な支援を行うことが必要」と強調した。

通知の影響からか、研修の機会が増えたが、全国平均７％程度の職員しか研修できていなかった。２０１６年に文科省会見によって、新たに資料が発表され、研修がよりすすめられる機会となった。しかし、自治体にも温度差があり、現実には研修できていない職員が数多くいる。

○人口規模調査ではＬＧＢＴの占める割合が５％と推定されている。クラスにいるのだろうか、いないのだろうかではなく、５％いる（ＬＧＢＴと性的マイノリティ、揺れ動いている人を合わせると、10％）という前提で、どうすればいいか、どのような支援をすればいいかを考えていくことが大事。

○最近のメディアの扱いをみると、芸能界ではお笑いネタ扱い。議員のＳＮＳへの差別的な書き込みがあると、書き込みの理由や謝罪を求められるようになってきた。不適切な言動があると批判の声が上がるようになってきた。オネエ、オカマ、ホモ、レズ、オナベなどは差別的意味合いを含むＮＧな言葉であるが、放送禁止用語になっていない。「人権課題である」という認識をもって、人が声を上げていかなければいけない。２０１４年オリンピック憲章に性的指向も含まれた。国連の人権機関は、国内法整備が進んでいないことを日本に対して再三勧告をしている。

性同一性障害に係る児童生徒に対する学校の支援の事例
（2015．4．30 文部科学省通知）

項　　目	学校における支援の事例
服装	自認する性別の服装・衣服や、体操着の着用を認める。
髪型	標準より長い髪型を一定の範囲で認める（戸籍上の男性）。
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める。
トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める。
呼称の工夫	校内文書（通知表を含む）を児童生徒が希望する呼称で記す。自認する性別として名簿上扱う。
授業	体育又は保健体育において別メニューを設定する。
水泳	上半身が隠れる水着の着用を認める（戸籍上の男性）。補習として別日に実施、又はレポート提出で代替する。
運動部の活動	自認する性別に係る活動への参加を認める。
修学旅行等	１人部屋の使用を認める。入浴時間をずらす。

○学校生活（小・中・高）において、全体の約６割がいじめを経験し、そのうちの６割強が「ホモ・おかま・おとこおんな」等のことばによるいじめを、２割弱は、服を脱がされるいじめを経験している。からかわれたり、いじられたりして、学校が怖いと思っていた子どもたちが多く、放っておくと、自傷行為や自殺につながる確率が高くなる。私たち教職員は、①職員研修を実施して学ぶ。②子どもの前に立つ教師が性的指向や性自認、ＬＧＢＴについてポジティブな発言をする。③授業を実施する。授業の中では、お互いの考えを伝え合い学び合うためにグループディスカッションをする。不適切発言は放置しない等、子どもの命を守るという姿勢を明確にして、学校が一つになって、多様性を尊重する環境を整備することが大切である。

（参加者の声）

○ＬＧＢＴという言葉は知っていましたが、統計データ等の科学的分析から明らかになった実態が分かったことは、大変勉強になりました。また、ＬＧＢＴを取り巻く課題を、教材化し、学校で取り組むことができるということが分かりました。今後の教育実践につなげていきたいと思いました。

○奥が深く、簡単に言葉にすることができません。文科省の通知文は読んでいたので知ってはいましたが、こんなに深いものだとは思わず、ファイルにとじこんでしまった自分をなんと浅はかだったのかと思いました。「話してくれてありがとう」この言葉が胸にしみました。管理職として、そんな言葉かけができる先生方を育てていきたいと思いました。

○「知っているつもり」でいたことに気づかされました。自らの偏見に愕然としました。恐ろしいことです。正しい知識を得たうえで、適切な判断をすることの重要性を改めて認識しました。大変有意義でした。

○ＬＧＢＴに係る研修を本校や本中学校区では行っていますし、生徒たちも文化発表会で発表しました。今後も積極的に人権・同和教育の推進とともに、ＬＧＢＴに係る取組を充実させていきたいと思います。

○ＬＧＢＴについて、とてもわかり易く、講義していただいた。学校における問題点を具体的に指摘していただき学びになった。職場でまず、職員と学んだことをシェアしようと思う。

○ＬＧＢＴについてデータと共に実態について話を聞いたのは、初めてでした。教室に一人はいる、と思って毎日の子どもとのかかわり方を見直さなければいけないと思いました。最近、男女共同参画社会や家族について授業をした時に、一クラスで、（同性愛について）拒否反応を示した生徒が数名ずついて、ＬＧＢＴのことを扱うはずではなかったのに、内容を変更して取り扱いました。「きちんと時間をとって学習をさせた方がいいね」と学年の先生方と話しているところです。